

(4) 生後6ヶ月で移行抗体が消失するので繁殖候補豚には、この時期に接種することが望ましい。

(5) 豚舎の清掃と消毒を充分行ない、汚物処理、豚の移動、人や車の出入り外部からの導入豚等に充分注意する。

## 2) ワクチン接種上の留意点

- (1) ワクチンは2～5℃の冷暗所に保存する。
- (2) 繁殖豚に5mlを4週間隔で2回耳根部皮下に接種する。
- (3) 注射部位は充分消毒してから確実に5ml皮下に接種する。
- (4) ワクチン接種前に必ず臨床検査を行ない、異常が認められる個体には接種を延期する。
- (5) 凍結したものは、効力を失なうので使用しない。

## 4 関連課題名

豚の地域環境別選抜試験(昭45～岩手畜試)

## 5 参考資料

- 1) 豚パルボウイルス感染と死流産 ウィルス25(.1～2)、1975
- 2) 昭和52年度獣医畜産業績発表会抄録、二戸家保、1978

## 5 岩手系ランドレース種の能力

### 1 背景と特徴

我国では肉豚あるいは一部で繁殖豚として雑種が飼われており強健性、繁殖能力、発育速度等に発現する雑種強勢の効果が利用されている。しかし、雑種強勢の効果は豚の基本的な能力に対する上載せ分にあたり上載せ分の多少もさることながら、もともと能力の高い親を用いることが大切であり、純粋種の段階で可能な限界まで充分改良を施す必要がある。このような認識のもとに同腹きょうだい豚を寒冷地(岩手)と暖地(宮崎)で分けて産肉性について同一方式の選抜試験が行なわれており、ランドレース種のいわゆる「岩手系」ができてきた。

### 2 技術の内容

#### 1) 岩手系と宮崎系(ハマユウ)の第6世代調査豚の成績

( )内は標準偏差

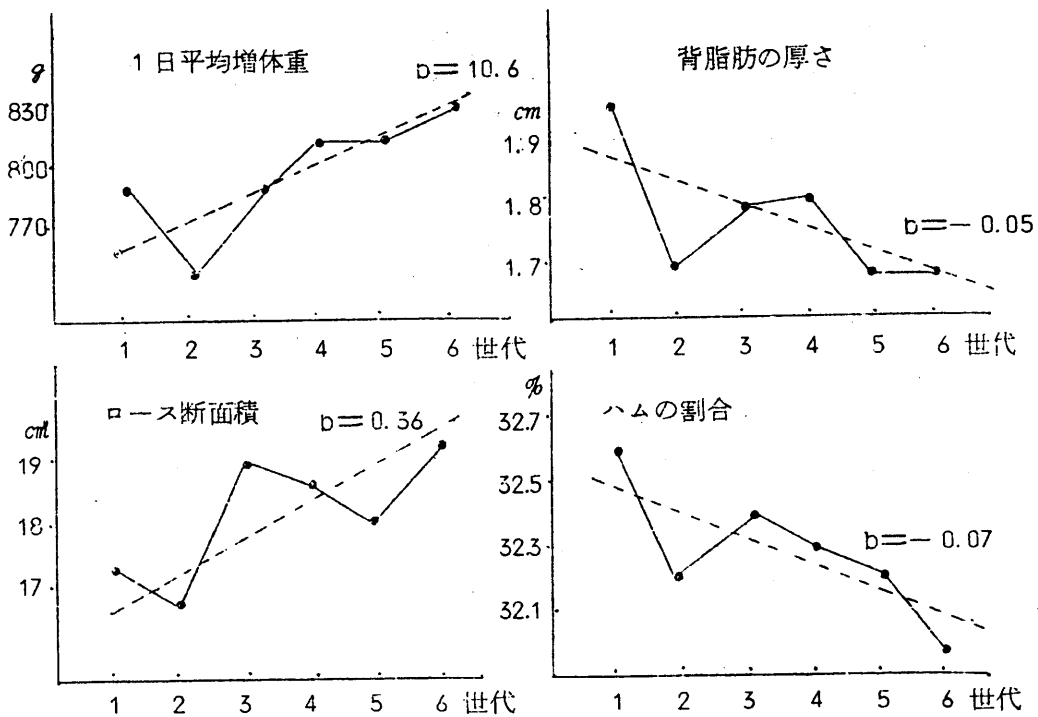
	調査頭数	30Kg日 令(日)	90Kg日 令(日)	30～90Kg 1日平均増体重	背腰長 (Ⅱ)cm	背脂肪の 厚さcm	ロース断 面積cm <sup>2</sup>
岩手系	♂ 100頭	72 (7)	144 (10)	834g (75)	71 (2)	1.7 (0.3)	19.3 (2)
宮崎系 (ハマユウ)	73	83 (10)	164 (11)	777 (87)	71 (2)	1.7 (0.3)	19.2 (3)

2) 岩手系と県内優良豚の比較

( )内は標準偏差

	調査豚数	30 Kg 日令	90 Kg 日令	30 ~ 90 Kg 1日平均増体重	飼料 要求率	背腰長 (II)	ロース 断面積	背脂肪 の厚さ
岩手系	♂ 100 頭	72日 (7)	144日 (10)	834 g (75)	3.23 (0.3)	71 cm (2)	19.3 cm (2)	1.7 cm (0.3)
県内	♂ 52	80 (9)	160 (13)	768 (110)	3.59 (0.5)	70 (3)	17.5 (2)	1.8 (0.4)
全国	♂♀ 214	—	163	745	3.52	71	18.0	—

- 3) 岩手系は成長が速く、むだな脂肪が少なく赤肉の多い豚へと改良が進んできた。また、肉質(保水力、色調、テクスチャー)にも低下の現象はみられない。
- 4) 岩手系の第6世代豚は平均血縁度が"いとこ"関係に匹敵しており、能力の斉一性も優れてきた。
- 5) 第5世代豚の繁殖成績(初産5.7腹)は平均生産頭数9.1頭、育成率89%と高い。
- 6) 第5および第6世代の肉用子豚を環境の異なる5戸の養豚農家で肥育出荷された肉豚の枝肉上物適合率は64.9%(96頭/148頭)であった。
- 7) 岩手系第6世代までの改良の経過は下図のとおりである。



### 3 普及上の留意点

- 1) 県内の成績は指定種豚場からの産肉能力後代検定豚のもので県内の種豚の中でも優良な豚である。
- 2) 全国の成績は昭和50、51年の産肉能力後代検定成績速報の平均値である。
- 3) 岩手系の確立も近くなり、系統の維持、増産の対策が必要である。
- 4) 異品種交配などによりF1の能力はさらに向上するものと期待される。
- 5) 選抜は第7世代で終了し第7世代の秋子と第8世代の子豚が配布される予定である。

### 4 関連試験課題名

種豚の地域環境別選抜試験(昭45～54、岩手畜試)

### 5 参考資料

- 1) 岩手畜試成績書 昭46～52、岩手県畜産試験場
- 2) 養豚便り VoI 22、23、24、25、26の各3、VoI 27の4、全国養豚協会